

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 今年の初登山は美ヶ原へ行ってきました

ここ数年、時には生徒をダシに使いながら、正月の登山は自宅から見える山に日帰りで登るのを常としている。本当は今年も生徒を連れて一緒に登ろうと企画していたのだが、病気にケガ、あげくはバイトが忙しいようで、乗りが悪かった。結果、企画倒れの単独行と相成った。・・・年が明けてからこの方、強い寒波の影響で北アルプスは全く拝めなかったが、今日4日は久々にすっきりと晴れ渡り、白い峰々がまばゆく見えた。そんな天気の下、小生は、美ヶ原に登るために朝8時に我が家を出発、三城牧場まで車を走らせた。三城憩いの広場を9:10に出発。予定したコースは、百曲りを登って、王ヶ頭ホテルから少年の家に下る周回コース。先日下界で降った雨はこのあたりでも雨だったのか、道はカチンカチンに凍り付いている。しかし、昨夜来の雪が上に乗っかっているため、アイゼンをつけるほどでもないのは却ってありがたい。そんな道をおよそ30分。広木場に着いた。青空と唐松の枝先の新雪のコントラストが美しい。静謐な森の中に漂うピーンと張りつめた清冽な気分。たった一人この白い世界の中にたたずめば自然、心が洗われていく。山眠る冬の真骨頂だ。

ここから茶臼山への道を分け、百曲りの急登へと入る。一步一步踏みしめながら、高度を着実に上げていく。登るにつれ景色は刻々と変わって行く。一人で登るというのは気儘である。しかし、一方で知らず知らずのうちにペースが早くなる。気温が低いのがメリットの冬山なのに、いつのまにかジワっと汗ばんできた。中腹で1枚上衣を脱ぎ、気合いを入れて上を目指す。いつか樹相は変化し、ダケカンバが出てくる。もう台上はすぐそこだ。10:30最後の急登を登りつめると、かの喜八翁が「天井が抜けたかと思ふ」と絶唱した広い台地の端に出た。左手前方には冬の要塞よろしくテレビ塔と王ヶ頭ホテルの偉容。前方には美しい塔。東信の山々に続く八ヶ岳と南アルプスの間には裾野を長く引いた富士山が気高く聳え、台上のそこそこには前夜山上のホテルで過ごした人たちだろう、幾人かがスノーシューハイクを楽しむ姿が散見される。10:50美しい塔で1本。真冬の2000mの高さにいるのが信じられないような穏やかさだ。風もなく視界も開けた台上はまさに別天地である。



11:30 王ヶ頭ホテルの前のベンチで大休止。その後は2034mから通称ダテ河原コースを一気に三城まで下り12:45駐車場着。景色も堪能しながらのお手軽日帰りハイキングだった。

## 12月の登山

12月は2回山に登った。1日には信高山岳会のメンバー重田、松田、久根、沼田の4名とともに日帰りて表妙義を半分縦走、愉快的登山ができた。朝8時20分、まだ紅葉の残る妙義神社から急登を登り、9時10分に大の字に到着。奥の院から稜線に出たのが10時10分。そこからは天狗岩(11:20)、相馬岳(12:25)を経て堀切(13:50)まで稜線を辿った。妙義神社に戻ったのは15時40分。岩稜と鎖場の連続でちょっとしたスリルも味わいながら一日楽しんだ。群馬は隣の県なのだが、松本に住んでいるとどうしても目は北アルプスに向いてしまうので、精神的に遠い。しかし、アプローチも2時間程度。冬、長野県が寒気の影響を受けているときでもこちらはスカーンと晴れ渡るピーカンも期待できる。そんなことを知らされる山行だった。重田さんは「来年は残り半分をやろう」と、もうすでに大乗り気。県外にも標高は低くともいい山はたくさんある。

15日、16日は昨年に引き続き、我がホームグラウンドの馬羅尾キャンプ場で耐寒ビバークをと目論んだが、直前に雪が来た。雪があることは想定の内ではあったのだが、なんだか生徒のモチベーションが上がらず参加者が少なかったので、それではとビバークは中止。テントで懇親を深めながら鍋を囲み、冬山への準備をするための山行として設定した。15日は天候もあまりよくないという予報が出ていたが、大崩れはしなかったため有明山の不動滝まで登ることができ、翌16日は雨引山に登れた。

初日は、9時20分に馬羅尾キャンプ場を出発。端から山頂は目指さず、不動滝までとし、時間も1時をタイムリミットと設定して行動した。10時に林道終点着、ここから本格的な雪道となる。天候は生憎小雪混じりであるが、予想よりは遙かにました。「学校から真西にアルプスに負けじとその岬々たる山容を見せる有明山は『池工の山』、折あるたびに訪ねよう。」日頃からそう唱え、昨年度の同時期、今年度の10月にも訪れた場所であるので、2年の生徒にとっては3回目。勝手知ったる道になりつつある。ここまで来た、まだここかと言いながら、大曲を通過したのは11:30、ここからは夏道は左岸に行くのだが、右岸へ渡渉し沢沿いを進んだ。そこからおよそ1時間、不動滝に到着したのはタイムリミットとほぼ同じ12時55分だった。滝は上部が三分の一ほど氷りつき小さく見えた。予定通りここから引き返し、キャンプ場に戻ったのは15時40分。



夜は仕事を終えてから駆けつけてくれた外部コーチの山内さんを交え、ちゃんこ鍋を囲みながら、予定通り懇親会。翌16日は、6:50にキャンプ場を出発し、雨引山を目指した。途中の熊の穴岩では、ロープを張り、1時間ほどフィックスの通過訓練をし、山頂に着いたのは、9時40分だった。下りは何も言わなくても雪の中を転げ回り、戯れながら楽しむ生徒たちの姿が印象的だった。僕らが何も教えなくても自然が教えてくれる。

## 編集子のひとごと

明けましておめでとうございます。寒波の襲来で年明けから遭難の事故が相次いだ正月でした。くれぐれも安全な登山をと自戒しながら、今年も山に向かいたいと思っています。本年もよろしくお願ひ致します。(大西 記)